

広報

ふ・れ・あ・い



編集・発行

印西市社会福祉協議会小林支部

TEL42-0294



コロナ後の時代を見据えて、より一層地域の皆様が暮らしやすい小林を感じて頂けるように、新たな考えを取り入れるなど多くの人が交流でき活躍できる場所や機会をつくっていききたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

「新しい生活様式と地域福祉」
コロナ禍の中、新しい年を迎え、小林地域の皆様には心清らかに過ご
社会福祉協議会小林支部は、地域の皆様に支えられ、そして日頃より
ご指導ご協力を頂いております事に感謝を申し上げます。
さて、令和3年は新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから支部
活動を自粛してきましたが、年末にかけての感染減少傾向を踏まえて、
独居高齢者の皆様が集い楽しんで頂く「さくら会食会」を一部内容変更
して約二年ぶりに再開しました。
不安もありましたが皆様の元気な姿と笑顔に接することができて、今ま
で当たり前と思っていた人と人との「つながり」「ふれあい」「支え合い」
の重要性和私たちの活動目的を再認識する事が出来ました。
また、支部ではこの機会を捉えて
順天堂大学の松山毅准教授をお迎え
して「地区社協のこれから」につい
て理事の研修会を行いました。
地域福祉はアナログな顔の見える
「お互いさま」の人間関係が基本で
あり、それは身近な地域だから出来
ること。そして、今後は「離れてい
ても繋がれる活動」「二人でもでき
る活動」など新たな取組の必要性を
説かれ、理事との懇談も交えた有意
義な研修でした。

「新しい生活様式と地域福祉」

印西市社会福祉協議会小林支部支部長 山口 茂

「新型コロナワクチン接種」について小林地区にお住まいの
高齢者138人にアンケートのご協力を頂きました。
(対象：65~69歳・35人、70才代・72人、80才代・27人、90才代・4人)

- 問1. ワクチン接種2回しましたか？
a. はい(138人) b. いいえ(0人)
問2. ワクチン接種予約は誰がしましたか？
a. 自分で(79人) b. 家族又は親戚が(51人) c. 近所・知人(8人)
問3. 問2でaと回答した方に質問です、予約方法は？
a. 電話で(29人) b. インターネットで(12人) c. 直接病院で(37人)
問4. ワクチン接種予約方法について
a. 特に問題はない(94人) b. 難しかった(25人) c. 他の方法で(15人)
問5. 接種後、副反応はありましたか？
a. あった(1回目 22人・2回目 32人・両方 24人) b. ない(58人)
問6. 問5でa. あったと答えた方、次のどんな副反応でしたか？
a. 発熱(23人) b. 頭痛(16人) c. 倦怠感(30人) d. その他(19人)
問7. ワクチン接種を終えて感じたことは？
a. 安心した(79人) b. まだ不安に思う(53人) c. その他(3人)
問8. ワクチン接種又は予約方法について、感じたこと、改善点は？
◆病院によりネット受付、電話受付、来院のみ受付、診察券があれば受付、
なくても受付など統一されていなくて右往左往でした。
◆集団検診のように地域ごとの日時指定希望です。◆インフルエンザ予防
接種のように気軽に予約できたらいい。◆とにかく電話が繋がらない。
◆市の方であらかじめ接種日を決め連絡したらいいのではないかと。
◆ワクチン接種しない方への対応をゆるくしてほしい(自由選択のはず)。
(アンケート回答者の皆さまご協力ありがとうございました)



12月3日(金) 研修会

小林市方地区に

新民生・児童委員

栢田信也氏の後任に浅野和人氏が新しく委嘱されました。行政と地域住民をつなぐ地域福祉の推進役として、今後のご活躍を期待します。

地区担当理事 (お問合せ先)

(太字…民生・児童委員)

- ・砂田・新田…鈴木敏男(97-0221)、小川(97-0212)
・市方…浅野(97-3135)、小関(97-2210) 馬場・牧場…山口(42-3892)
・小林北1,2…石橋(97-1806)、松藤(97-2272)
・小林北3,4,5,6…清倉(97-0826)、風岡(97-1562)
・小林浅間…佐藤(97-5784)、吉田(97-4687)
・小林大門下…橋本(97-1060)、鈴木日佐雄(97-1898)



令和3年度行事予定

行事名

予定日

対象者

* さくら会食会

2/9, 3/9 予定

65歳以上の独居の方

* 地域見守り活動

通年

小中学生登下校時

何となく分かるようで、よく分からない言葉に「ジェンダー」があります。これは男女という、生まれながらの「生物的」性差に対して、「社会的・文化的」な意味合いから見た性差のこと。しかし、これを実感として理解するのは容易ではありません。

例えば、日本の昔話では、「お祖父さんは山に柴刈りに行きました」「お祖母さんは川に洗濯に行きました」というように「男はこうだ、女はこうだ」ということが、あたかも社会の常識として教えられていました。

「ジェンダー」はこのような、人間同士の約束事にすぎないものを、人間同士の合意で変えていくことができるはずだ、と考えることによつて、性差に関する生物学的な宿命論から変えていく言葉のようです。

江戸の川柳に「あいさつに 女はむだな 笑いあり」というのがあります。初めてこの句を聞いた時は、何となく微笑ましい情緒豊かな光景が浮かびました。上手く詠んだものだと感じしましたが、現在ではお叱りを受けるかもしれませんね。

一方、わが国の家庭内役割における男女の不平等は、世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数2021によると先進国では最下位の120位でした(韓国102位、中国107位)。しかし、3位で男女平等達成においては優等生のノルウェーでも、このような不平等傾向はあるようです。

お茶の水女子大名誉教授の石井クンツ昌子さんによれば、ノルウェーの男女平等は社会的不平等の基に成り立っているという問題があるといっています。何故でしょうか？

ノルウェーでは子育てや家事をシェアしていることが多く、全ての家庭内労働を二人で担うのは難しい。そのため、低賃金で雇用できる移民やホームステイして子育て・家事を手伝う「外国人オペア」の活用であまりお金をかけないでこれらを可能にしているとのこと。

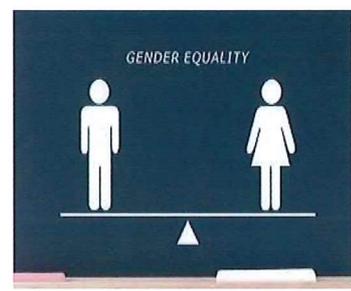
言い換えれば、家庭内役割は男女平等であっても、低賃金労働者の雇用で支えられ、結果 社会階層間の不平等が発生するという新たな問題が指摘されています。このように男女平等先進国のノルウェーであっても、外側からは見えない多くの課題を抱えており、政策等において地道な努力が続けられているのが現状です。

ジェンダー格差が顕著な日本では、差別的な発言等によつて五輪関係の業務や役職から外される出来事も相次ぎましたが、これを機会に、お互いに多様性を認め合うことの大切さに対する理解が日本人の間に深まっていけばよいのではないのでしょうか。

「あなた作る人」「ボク食べる人」世代の私にとつては、まだまだ高いハードルのようですが。



本埜の白鳥 2022



お待たせしました、19ヶ月振りに「さくら会食会」を再開いたしました。しばらくは催しだけで、お土産に軽食をお持ち帰り頂いています。(しかし、喜びもつかの間、1月のさくら会食会はオミクロン感染拡大で中止となりました。残念！)



10月20日(水)「講談の会」
講師・神田紅純さんによる演目は「山内一豊と千代」と「鉢の木」の2本。
講談は初めての試み、神田さんのご両親が小林在住というご縁で開催することができました。熱のこもった古典芸能を堪能させて頂きました。

11月10日(水)「小さな音楽会」
ボランティア活動にも積極的に参加されている、小林在住3人の音楽家(小林北 木村夫妻、浅間 谷崎さん)による演奏会です。2015年から、年1回行われており、ソプラノ(声楽)・フルート・ピアノの演奏に会場中がウツリと癒やされたひと時でした。



12月8日(水)「クリスマス会」
2年振りのクリスマス会が行われました。前半は「リングング・ハート」の皆さんによるミュージックベルの演奏会。心地よい音色を楽しんだ後は、いつものクリスマスビンゴ大会です。大雨の中、多数のご参加いただき有り難うございました。

編集後記……この冬も本埜の田んぼに1073羽(1/11現在)の白鳥が飛来しています。日中は近くの川沼に遊びに出かけ、夕方、エサの時間には決まって帰ってきます。夕陽を背に、大きく羽を広げて空から舞い降りる着水姿は壮観です。水面を優雅に泳いでいる白鳥からはとても想像できない勇姿、シャッター音が響きます。

印西市社会福祉協議会
賛助会員・特別会員ご加入の皆様へ
令和3年度新規又は継続加入を頂き有り難うございました。お預かりしました会費は社会福祉協議会に確かに納入いたしました。篤志に感謝申し上げます。

